

2011年度

科目名	文化財学研究指導及び演習(文化財構造論)				
担当教員	犬木 努				
配当	文修1・文博1		コード	22025	
開期	通年	講時	火曜日2限	単位数	4
授業テーマ	修士論文および博士論文の執筆に向けて——型式論の論理と方法を学ぶ				
目的と概要	①修士論文(または博士論文)執筆に向けての研究指導と、②型式論への理解、という二つの柱を設定する。 考古学の基礎はいうまでもなく「型式論」である。しかし、いわゆる概説書などを紐解いてみても、その方法については、通り一遍のことしか記述されていない。どの学問もそうであるが、実践を経ずして方法を学ぶことは困難である。本演習では、具体的資料操作を通じて、型式論の論理と方法への理解を深め、各自の修士論文(または博士論文)執筆に反映できるようにすることを目的とする。				
成績評価法	①平常点(発表内容についての評価)(70%) ②レポート(30%)				
テキスト	使用しない。授業時に適宜資料を配布する。				
参考書	授業中に適宜指示する。				
履修に当たっ ての注意・助言 /準備学習	授業中に参考図書を指示された場合には、事前にきちんと読みこなしておくこと。				
講義計画					
概ね以下のような内容について、発表形式で進めていく。 ①型式論を理解するうえで必要と思われるテーマをこちらで設定し、分担発表してもらう。 ②各自の修士論文(または博士論文)に関連するテーマで発表してもらう。 ③共通課題を設定し、それに関わる個別テーマを分担し、発表してもらう。 ④各自がすすめている資料調査の成果について発表してもらう。 このほか、各自のテーマに応じて、対象とする考古資料の資料調査を積極的に行ってもらい、その結果について、定期的にレポートを提出してもらう。遺跡や遺構をテーマとしている場合でも、その遺跡や遺構の年代決定や性格付けのために、遺物の分析は不可欠のものである。つまり、どのようなテーマを選んだ場合でも、遺物研究は必要不可欠な基礎分野であり、本ゼミにおいても遺物分析力の育成をもっとも重視している。					